

災害看護

災害医療の 7つのポイント

皆さんの所属している医療施設では、災害マニュアルや災害活動の原則はありますか？

発災直後の混乱した現場では、より多くの傷病者に対して最善が尽くせるように、どんな現場においても体系的な対応が必要です。そこで「災害医療の7つのポイント **CSCATTT**」を紹介します。

CSCATTT とは、災害時の組織体制と医療支援の7つの原則の頭文字をとった言葉です。以下の表に詳細を示します。

組織体制	C	Command & Control 指揮命令・統制	Command は、関係機関内での縦の「指揮命令」 Control は、横の連携である「統制」を意味する。 災害発生時の急性期に迅速な医療活動を行うためには、組織化された指揮命令系統の確立がその後の混乱を防ぐ。
	S	Safety 安全	3S Self 自分自身の安全 Scene 現場の安全 Survivor スタッフ・患者・面会者の安全 医療従事者が安全に活動できないと判断される場合には、しかるべき組織への通報、現場からの退避、安全が確保されるまでの避難の原則に従う。
	C	Communication 意志疎通・情報収集 情報伝達	Communication は、さまざまな情報伝達を必要とする。 TV、ラジオ、インターネット、無線機、優先携帯電話、衛星電話等を使用し、現状の把握と医療組織内での情報伝達、警察・消防などの情報伝達、救援機関との情報伝達、被災者との情報伝達に努める。
	A	Assessment 評価・判断	病院の状況（施設、負傷者、危険箇所、崩壊箇所など） 被災地の状況（負傷者、危険地域など）患者の受け入れが可能かを判断
医療支援	T	Triage トリアージ	災害現場、病院来院時、広域搬送時に被災者のトリアージを行い、治療の優先度（緊急度）や搬送順位を決める。
	T	Treatment 治療	トリアージで緊急度の高い被災者から傷病に見合った適切な治療を行う。
	T	Transport 搬送	病院の状況（人材や使用器具の在庫、ライフラインの状況など）を考慮し、後方搬送・広域搬送を行う。

出典：「実践！災害看護 一看護者はどう対応するのか」 著 野中廣志 照林社 P4

CSCA：組織体制関連の原則

TTT：医療支援体制の原則

この災害活動の原則は、どんな所で活用されるのでしょうか……？

答えは“**あらゆる災害医療現場**”です。例えば、病院災害対策本部においてリーダーの決定・安全の確保・情報伝達・情報収集、病院としての方針や対応方法の判断などは重要です。

各現場（トリアージポストや赤・黄・緑エリア）においても複数で活動する場合には、リーダーの決定だけでなく、情報収集者や患者対応を行う人など役割分担が必要です。

CSCATTTの原則に基づいた組織では、それぞれの役割を認識し、行動することで、効率的な災害活動が展開できます。事実、災害時のマネジメントの基本として、災害医療の世界では広く活用されているのです。

皆さんの所属施設でも訓練やマニュアル作成に活用してみたいかがでしょうか。